

石川ブロック 平成19年度 第4、5回委員会における意見に対する対応表(案)

No.	前回委員会意見	対応内容	対応箇所・時期	記載の有無		
				現状と課題	目標	
平成19年度 第4回委員会意見	1	本川だけでなく、支川も含め、上流・中流・下流における環境上の特性から区分すること。	マクロ的な河川特性に加え、上下流の連続性、瀬・淵、水質、動植物、土地利用、景観地、河川利用等といったミクロ的な環境を加え、石川ブロックをゾーニングする。	河川環境の現状と課題（今回資料）	●	
	2	石川本川・支川の治水・利水等の歴史、河川整備状況等、今後の治水・利水計画を考えていく上での経緯・背景を整理してほしい。	既往洪水の規模、洪水特性、既往濁水の規模、水収支など、治水、利水の現状と課題で整理していく。	古い歴史：流域の概要に記載済み 近年の状況：現状と課題（今回資料）	●	
	3	自然環境・文化・歴史・生活などの関連性や本川と支川の関係など、川と向き合う新しい視点でリンクするよう工夫をすること。	石川ブロックの紹介として、これまでの沿川の人々と川とのつながりを、歴史、文化、河川を通じた自然との関わり（利用）の中で連携させて、ブロックの目的（テーマ）として設定できるよう整理につとめる。	課題：河川環境の現状と課題（今回資料） 実施：整備計画で対応（次回以降）		
	4	流域の概要で示した社会動向等の内容と計画のつながりを踏まえた説明となるよう考えて欲しい。	社会動向に関する方向性は、各市町村の総合計画等における課題から整理し、放置林等の変化なども含め、流域の視点で河川や水辺に関わる事項をまとめる。対応については、石川ブロックにおける住民・自治体・河川管理者の協力関係の構築に寄与するよう整理に努める。	(課題)	●	●
平成19年度 第5回委員会意見	5	整備計画では、計画規模を含めた議論が可能か。今後策定される大和川水系基本方針の内容も踏まえた計画とするのか。	大阪府の長期計画から設定。大和川水系河川整備基本方針の同行等を紹介	治水の現状と課題（今回資料）		●
	6	治水の課題については、当面の目標から将来目標までの課題を示す必要があるのではないか。	将来については、計画高水流量の決定時に取り扱う。当面の目標については、整備計画の段階で対応	将来目標への課題は計画高水流量決定時に取り扱う（次回以降） 当面の目標への課題は整備計画目標流量設定時に取り扱う（次回以降）		
	7	治水能力が大きく足りないなど、わかりやすく整理してほしい。				
	8	治水安全度の記載方法を検討してほしい。治水安全度評価時に対象とした日雨量等の記載についても検討してほしい。	確率年と降雨強度の表記の併記を基本とする。	基本高水（流量と再現期間）決定後、表記を統一する。		
	9	近年の雨の傾向では、50mm/hをわずかに上回る雨が頻繁に起こっているため、当面の目標を見直した方がいいのでは。	計画降雨波形の設定の際、短時間雨量にも考慮する。	治水の目標（今回資料）		●